

2005 年 11 月 24 日

東アジア諸国との都市間連携について

宮川 努

本日は、別の会議が先約で入っており、欠席して申し訳ありません。本日の議題につきまして、簡単に意見を書かせていただきます。

- (1) 地方の都市と東アジア諸国との連携は、その都市の中核をなす産業の種類によって考えていくべきだと思います。
- (2) まずその都市の中核が製造業の場合、その企業が東アジアに進出している都市との連携を考えていくべきだと思います。その方が、企業にとっても、進出先の都市にとってもメリットがあり、人的・物的交流も自然に強くなっていくだろうと考えます。
- (3) 次にその都市の中核が、非製造業でかつソフトウェアや文化的なコンテンツの場合は、やはり大学や文化施設を中心に、東アジア圏での交流（シンポジウムやコンベンション）を積極的に進めていくべきでしょう。
- (4) 最後に、その都市の中核が観光産業の場合は、観光業自身が、東アジア、または世界的な宿泊業と積極的に提携していくべきでしょう。おそらく東アジア地域でのネットワークがなければ、今後観光者を日本の地域に呼び込むことは難しいと思います。ただ、現時点で旅館・宿泊業は、総じて業績が良いとはいえません。このため、各地方の金融機関も依然多額の不良債権をかかえていると思います（地方の保証協会も多額の不良債権の保証を残していると思います）。このため、時限付で、産業再生機構の地方版のようなものを設立し、ここで、こうした観光業の再建と、合わせて地方の金融機関との情報交換（リレーション・バンキングのようなもの）をしていけばよいのではないのでしょうか。ただ、すでに各地方のゴルフ場や温泉旅館では、外資系金融機関が積極的に企業再生を行っています。したがって上記の案が民業圧迫にならないかどうかは検討しておくべきでしょう。